

漁況海況予報事業

村山達朗・北沢博夫・清川智之

目 的

沿岸ならびに沖合漁業に関する漁況と海況とを調査研究し、その結果に基づいて作製された速報と予報を正確かつ迅速に広報し、漁業経営の安定に寄与することを目的とする。

調査の実施概況

1. 海洋観測の種類と実施月（付表に海洋観測記録および卵稚仔査定結果を示す）

観測年月日	調査名	観測点	調査員
1989. 3. 27～ 3. 29	沿岸定線調査	35(16)	村山達朗
1989. 4. 26～ 5. 10	沿岸定線調査	33(15)	村山達朗
1989. 5. 29～ 6. 8	漁場一斉調査	27	村山達朗
1989. 5. 7～ 8. 9	沖合定線調査	22(2)	村山達朗
1989. 8. 28～ 9. 1	漁場一斉調査	29(8)	村山達朗
1989.10. 2～ 4	沿岸定線調査	21(2)	清川智之
1989.10.30～11. 8	沿岸定線調査	21(2)	北沢博夫
1989.12. 5～ 6	ミニ定線調査	15	野田勝延
1990. 2. 5	ミニ定線調査	3	安達二郎
1990. 3. 5～ 9	沿岸定線調査	34(15)	村山達朗

()は補間点の数

水温・塩分検定：村山

卵稚仔同定：北沢

生物調査：村山・清川

2. 観測定線 図1に示す。

3. 調査項目

観測層 0, 10, 20, 30, 50, 75, 100, 150, 200, 300m深

観測項目 水温, 塩分, 流速, 卵稚仔, 気象, 海象, 釣獲試験

4. 調査船および観測機器

調査船 島根丸 (139.06トン, 770馬力)

観測機器 STD (アレック電子)・ナンセン採水器・サリノメータ (オートラブ社)・防
圧転倒温度計・測深器・魚群探知機 (古野電機)・ADCP (古野電機)

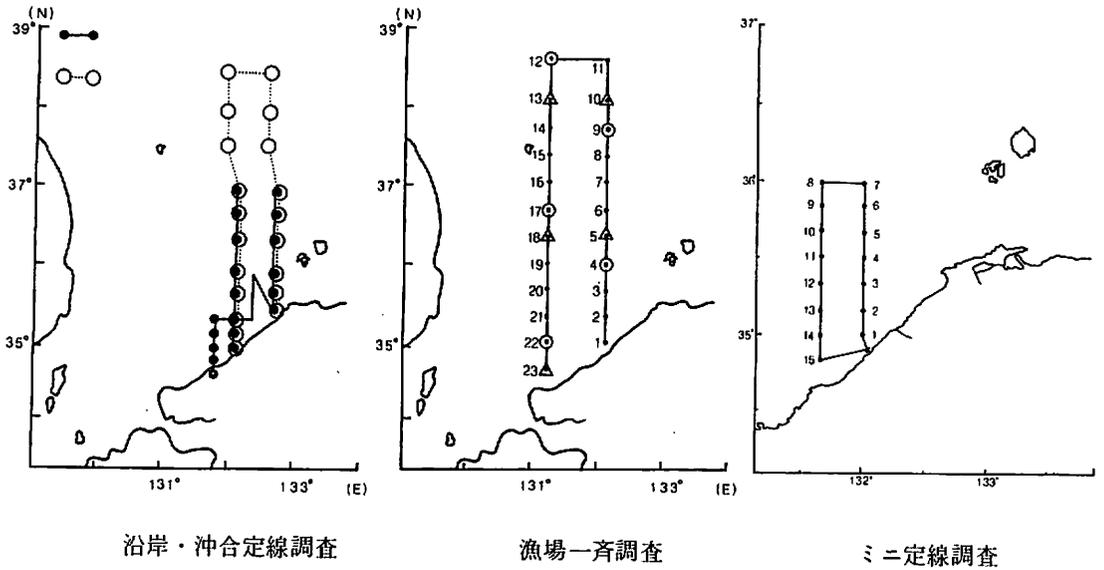


図1 観測定線

調査結果の概要

1989年4月から1990年3月までの浜田沖北方断面の水温分布とその年間偏差の分布を図2に示した。各月の水温分布の概況は以下の通りである。

4月：距岸90海里以上の沖合は平年よりやや高めであったが、それ以外は全般に平年並であった。

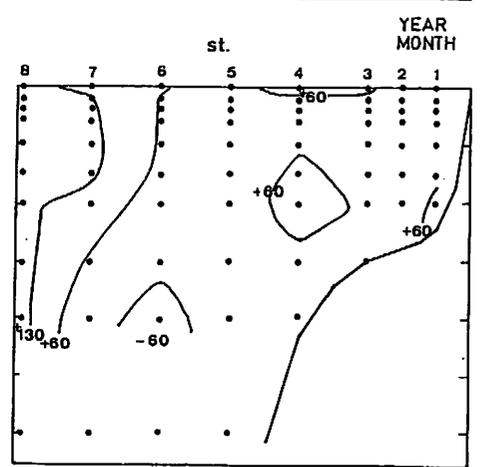
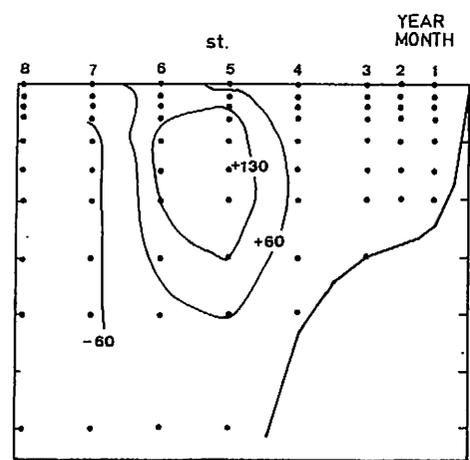
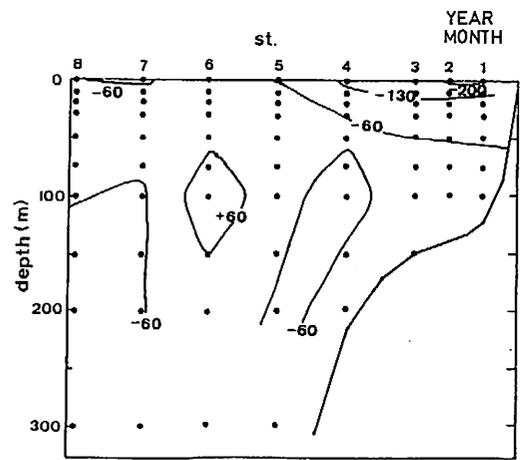
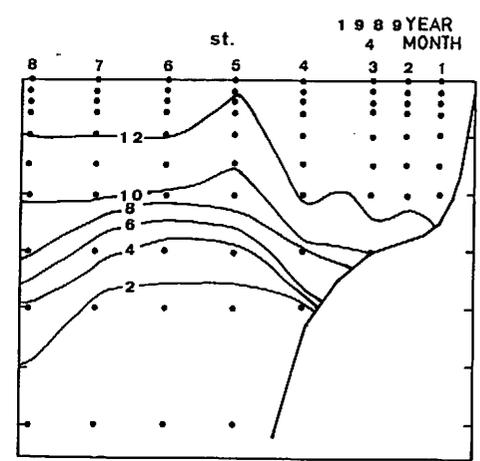
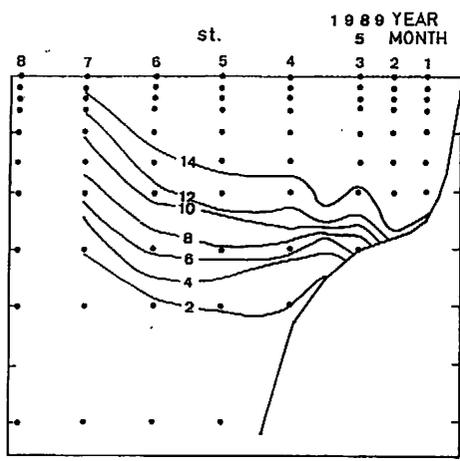
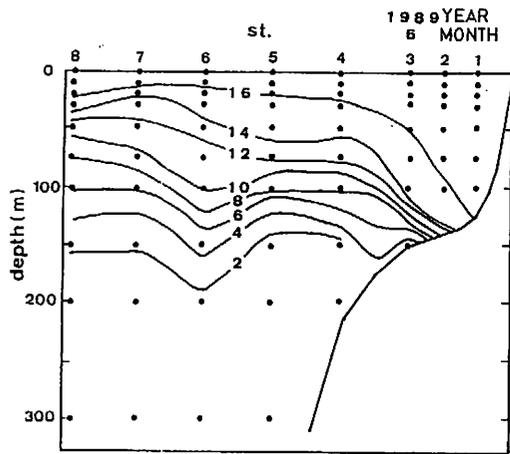
5月：距岸50海里から90海里的陸棚斜面上の海域は平年よりやや高めとなっていたが、それ以外の海域は平年並みであった。

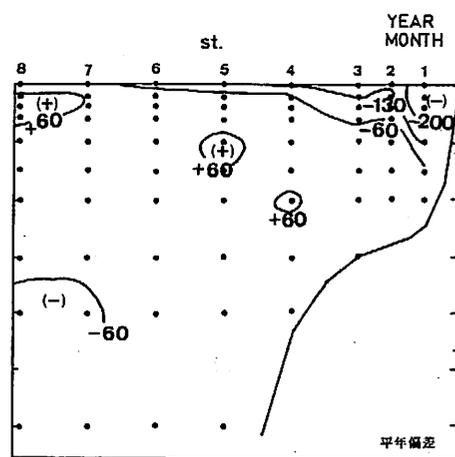
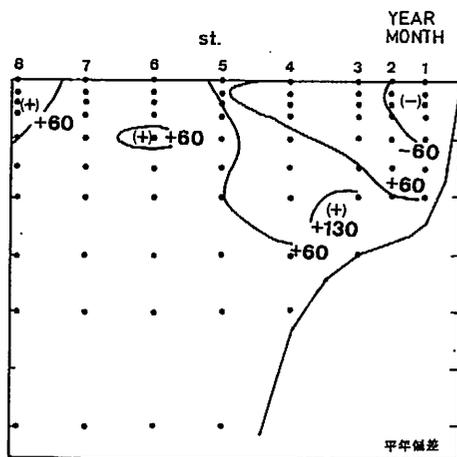
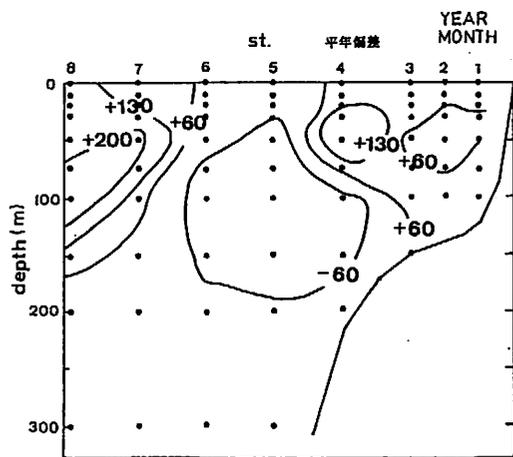
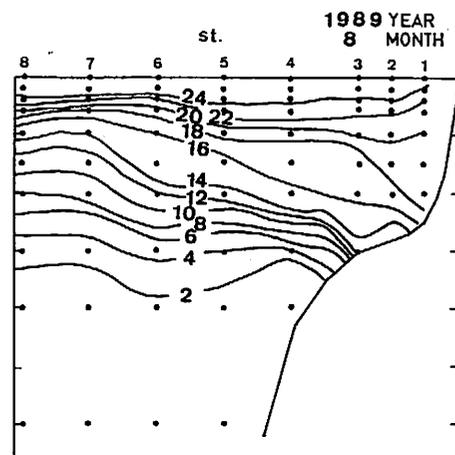
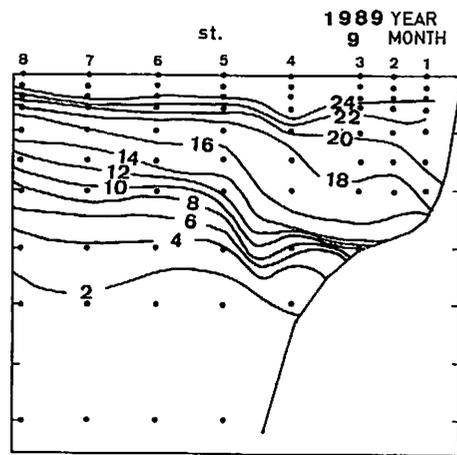
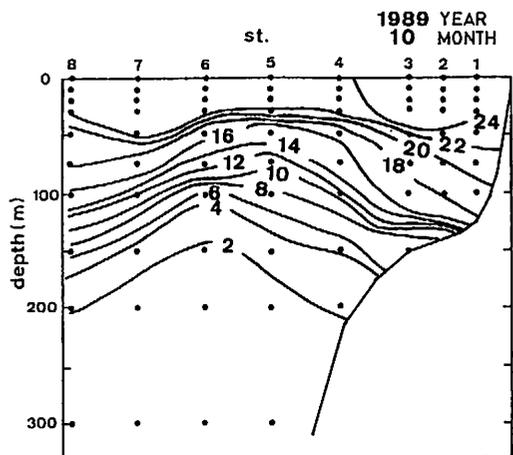
6月：距岸50海里以内の表面から50m深までは平年よりやや低めであったが、その他の海域は、概ね平年並みであった。

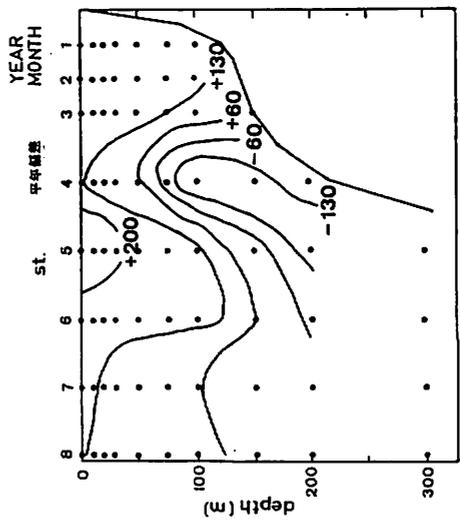
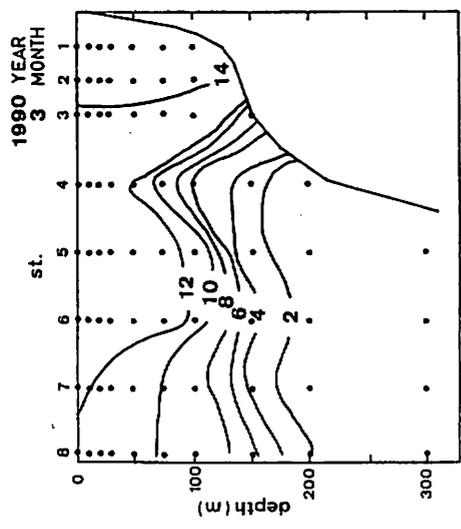
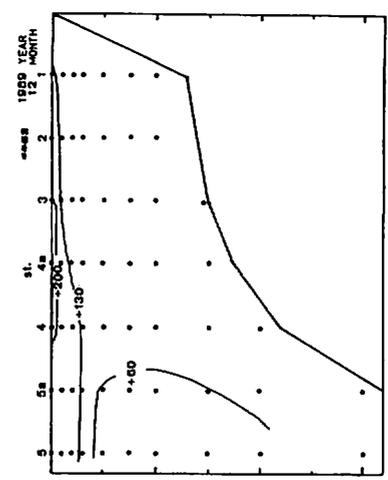
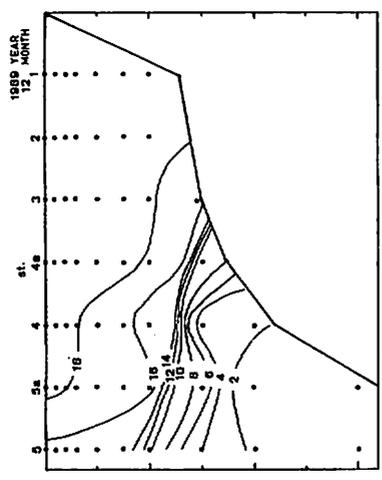
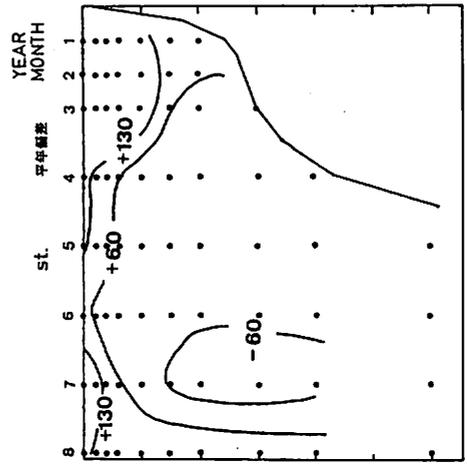
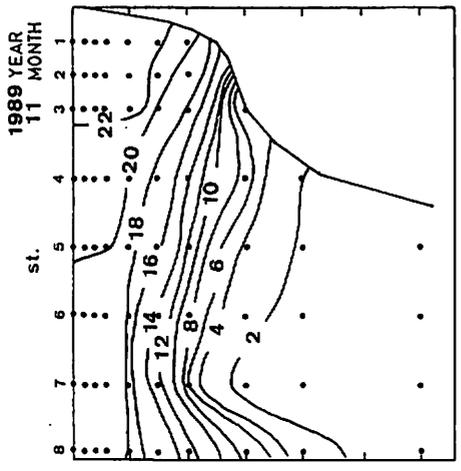
8月：表面から50m深までの表層域は平年よりやや低めであったが、それを除いては全般に平年並みであった。

9月：距岸70海里までの沿岸域の50m深から150m深までの中・底層域は平年よりやや高めであったが、その他の海域はほぼ平年並みであった。

10月：距岸60海里から90海里的の50m深から200m深までの中層域は平年よりやや低めであったが、その他の海域は平年よりやや高めから、かなり高めであった。







11月：距岸30海里までの沿岸域と表面から30m深までの表層域は平年よりやや高めからかなり高めで、その他の海域はほぼ平年並みであった。

12月：観測は距岸70海里までの沿岸域に限られていたが、ほぼ全域で平年より高めで、特に表面から30m深までの表層域は平年よりかなり高めであった。

3月：距岸50海里付近の陸棚斜面上の海域では100m以深の底層域を中心に平年よりやや低めからかなり低めとなっていたが、その他の海域では概ね平年よりかなり高めとなっていた。

図3に、浜田港における表面水温の旬平均と、過去11年間の平均値を平年値とした平年偏差を示した。本年度は4月は冬季の暖冬の影響で平年よりやや高めであったが、5月からは一転して平年よりやや低めとなり、それが9月上旬まで続いた。9月中旬以降は再び平年より高めとなり、それが3月下旬まで続いた。

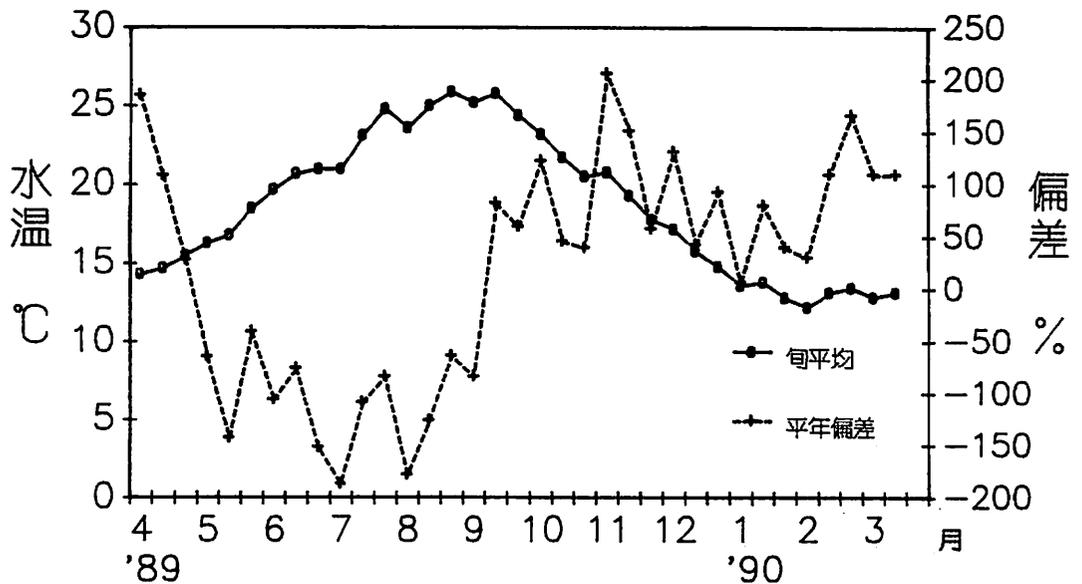


図3 1989年度の浜田港における表面水温の旬平均とその平年偏差